

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立桜町高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員4名 計5名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務担当)、主幹教諭(1学年担当)、主任教諭(2学年担当)、主任教諭(3学年担当) 計10名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、PTA副会長、元PTA会長、同窓会長、学校医、近隣中学校長、近隣自治会代表2名、近隣警察署代表、近隣消防署代表、 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年9月10日（水）内部委員10名、協議委員10名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、本校の現状と課題の説明、防災教育の計画、意見交換
 - 第2回 令和3年12月10日（金）内部委員10名、協議委員10名
学校経営の報告、予算執行状況、これまでの教育活動に関する報告、避難訓練の反省、学校評価の内容検討
 - 第3回 令和4年2月10日（木）内部委員10名、協議委員10名
学校経営の報告、予算執行状況、授業公開、これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告、学校運営に関する協議、提言、今年度のまとめと来年度への課題
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年12月10日（金）内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和4年2月10日（木）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で学校経営計画に基づき評価する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
全校生徒・保護者全員・教職員全員は12～2月に実施。※近隣住民は新型コロナウイルス感染症予防のため今年度は実施を見送り。
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、家庭学習、生活指導、進路指導、部活動・学校行事、健康安全指導、学校の施設・設備等
- (4) 評価結果の概要
生徒の回答は、多くの項目で前年度と比べて肯定的な回答が減少しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、学校行事、中国の姉妹校との交流、地域連携の項目は肯定的回答がやや減少傾向が見られた。また、項目によっては学年によって結果に差が見られた。
家庭学習はまだまだ、定着しているとはいえない。
保護者の回答は、前年度より肯定的な回答が増加した項目もあったが、昨年とほぼ同様の結果であった。
教員はいずれの項目とも高い肯定率だが、生徒との結果と突き合わせると満足度の差が見られる。ライフ・ワークバランスに関する質問には、十分な取り組みがされていないとの回答が多くみられた。
地域に関しては、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のためアンケート調査の実施見送ったため評価の対象外となった。
- (5) 評価結果の分析・考察
保護者、生徒、教職員の各アンケートは、一部の設問を除いて多くの設問に肯定的な回答が見られ、学校は比較的良好な状態にあるとの評価を得ているものと判断される。
保護者アンケートでは、学校と家庭との連携強化の必要性が今回のアンケートからも認められた。
生徒の家庭学習の習慣は1学年の時から定着させるように家庭、学校とも一層の努力が必要である。
例年の傾向ではあるが、2学年の家庭学習の落ち込み目立つ。
生徒の学習に対する意欲は、ここ数年高まってきている。学校として、いかに生徒の学習意欲を引き

出し、生徒・保護者のニーズに応じていくことが、今後学校として個々の教員が生徒のやる気を引き出す指導を行うとともに、組織的な進路指導体制の構築が、今後の進路実績の向上に結びつくものと考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

今回の学校評価では学年により差があることが確認されたが、学校評価で肯定的回答が多い学年は、学年運営を含めて生徒が良い環境で学んでいることが明らかになった。今後、地域と学校との交流を深める要望が出されているため、地域のニーズを把握する良い機会となった。また、家庭学習の習慣付けの重要性についても再確認がなされた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

生徒だけではなく保護者との情報の共有が、今まで以上に工夫が必要である。近隣の住民は、学校の協力・交流を望んでおり、それをどう受け止めるかに課題がある。地域社会との連携を深め、今後とも良好な関係を維持・発展させることが必要である。生徒の家庭学習の習慣付けは、学校だけでなく家庭にも応分の努力が求められている。学校として十分に対応しきれていない面もあり、双方の努力を継続し改善に繋げる必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

桜町高校の伝統を維持しつつも、新しい桜町高校スタイルの模索が求められている。行事を中心とした生徒の内面の成長を図る取り組みをさらに進展させ、北京・ワイ文中学校との国際交流をさらに積み重ねていくとともに、進学を中心とした進路指導の充実が必要である。

(2) 学習指導

家庭学習習慣の確立を図るため、授業規律の徹底に加えて、生徒に努力する大切さを学ばせることで家庭学習の習慣化に結び付ける学習活動をさらに推進する。学力スタンダードを学習活動の基本に位置付け、多様な進路希望を持つ生徒に対応しつつ、生徒の進路希望を実現させる教育を推進する。

(3) 特別活動

部活動の活性化を図り、加入をさらに促進させることで充実した高校生活をおくる基盤整備を行う。新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で、体育祭・文化祭の他、日常から学校・学年行事を自ら主体的に取り組ませるように指導する。

(4) 生活指導

遅刻指導・頭髪指導を通して、生徒に規範意識を植え付け、自らを律する態度を育成する。

(5) 進路指導

生徒の進路希望を実現させるため、個に応じた指導を充実させる。現役大学合格率60%を維持しながら、生徒の夢を叶える学習活動を実践し、一般受験合格者の増加を維持し続ける。

(6) 健康・安全

保健室利用状況の改善を図り、スクールカウンセラーの積極的利用を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 回答数 9名/10名中

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	4				2	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

本年度は、いずれの会議にも参加はなかった。

8 その他

保護者のアンケート回収率を更に高める方策が必要である。

保護者の来校の機会をさらに増やし、PTAと協力して回収率を高めていく。

する。

今後、学校評価の内容については、新たな検討が必要である。

平成30年度からは、ライフ・ワーク・バランスの推進に関する項目を追加している。

今年度から質問項目に、デジタル技術の活用推進に関する質問項目が追加された。オンラインによる授業配信、ICT環境の充実を図り、デジタル技術を活用した教育を一層推進する。